

松前町校務 DX 計画

1 次世代校務 DX 環境の構築

本町で配備している指導者用端末は、2つのアカウントを使い分けることで、校務系及び学習系の両ネットワークに同一の端末からアクセス可能である（両ネットワークへの同時接続は不可）。この端末は持ち運び可能なノート PC であり、令和5年度には町内全小中学校に無線通信環境を整備しているため、校内であれば場所を問わず業務を行うことができる。

現在、統合型校務支援システムはオンプレミス型を導入しているが、令和9年5月のシステム更改に合わせてクラウド利用型へ移行することを想定している。そのため、今後、ゼロトラストの考え方に基づいたアクセス制御とセキュリティを施した上で、校務系・学習系ネットワークの統合を図る。これにより、業務の効率化を推進するとともに、クラウド環境の活用を前提とした教育データの利活用を推進する。

なお、クラウドデータの活用を前提とした教育情報セキュリティポリシーを令和5年3月に策定済みであるが、実情に合わせて見直し・改善を行うこととしている。

2 ペーパーレス化の促進

(1) 学校と保護者間の連絡ツールをデジタル化

現在も連絡ツールは導入しているが、利用の主目的は学校から保護者への連絡であり、双方向のコミュニケーションツールとしては十分な活用ができていない。今後、各校の実情に応じて、より有効な連絡手段となるよう活用を推進する。

(2) FAX・押印の廃止

FAX でのやり取り（学校間及び学校と教育委員会間）や押印は原則廃止しており、データでの書類提出等を推進している。令和7年度には、町の庶務管理システム導入に伴い、会計年度任用職員（学校校務員等）の勤怠管理におけるペーパーレス化を図る。

(3) 汎用のクラウドツールの活用

令和7年度の学習者用端末更新で Chromebook を導入することに伴い、指導者用端末でも Google for Education のアプリを活用し、会議でのペーパーレス化や教職員の情報伝達の即時性を重視したツールの活用を励行する。

3 課題

簡易な文書をはじめ、押印の原則廃止を行っているものの、人事関係書類等で未だ押印を求めるものが残っている。校務 DX 推進のため、既存書類への押印の可否や、電子署名による対応の可否などの検討を続ける必要がある。